

## 第4学年 社会科学学習指導案

日 時：平成23年10月5日（水）5校時  
場 所：花巻市立若葉小学校  
学 級：4年2組（児童数32名）  
授 業 者：佐藤 宏往（若葉小学校）  
協同研究者：菅原 孝喜（湯口小学校）  
阿部 薫（矢沢小学校）

### 1 単元名 「地いきの発てんにつくした人々」（1）田の水をもとめて～用水をひく～

### 2 単元について

#### （1）本単元の位置づけ

本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の目標(2)「地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする」及び内容(5)「地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする」に基づいて設定されたものである。「次のこと」というのは、ウの「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」のことである。

ここでは、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を通して、本校の体験学習田の用水を引いている新田堰を取り上げる。その調査活動を通して、作った要因や工事の工夫と努力についてとらえさせるようにしていきたい。また、新田堰をつくった先人達の苦労や努力を考えることにより、地域に対する関心を高め、誇りと愛情をもって今後の地域の発展を願う気持ちを育てていきたい。

#### （2）教材について

花巻市の湯口地区をはじめ通して、石鳥谷町から北上市に至る北上川西部の約4500haの水田を灌漑している重要な用水路が新田堰である。奥羽山脈を源とする豊沢川を志戸平でせき止め、山際を穴堰（トンネル）にて導水し、その後「北幹線水路」「中央幹線水路」「南幹線水路」との三分水となり、農業用水としての役割を果たすとともに、上水道にも利用されている。この水路はもともと、江戸時代初期に開田された鍋倉新田の用水路であった。1683（天和3）年頃に開削されたと考えられており、その後水路の拡大・改修等が1736（元文元）年頃まで進められ、奥寺八左衛門・煤孫治兵衛・伊藤久慶・猫塚藤四郎らが携わったと伝えられている。1961（昭和36）年の豊沢ダムの建設に伴い全面コンクリート補強された用水路は、今日なお花巻市を潤す幹線水路であり、先人の開発に対する願いや開発の際の苦心や苦労などをとらえさせ、地域社会の発展を願う態度を育成するうえで適切な教材と考える。

#### （3）児童の実態及び指導観

児童はこれまでに、「安全なくらしとまちづくり」の学習で、地域の消防署の見学を行ったり、校内及び地域の消防施設や道路標識などの調査を行ったりしながら、人々の安全なくらしを守るための関係機関の働きとそこで働く人々の工夫や努力について考える学習を行ってきた。さらに「健康なくらしとまちづくり」では、豊沢ダム、新田堰頭首工、高円万寺浄水場の見学を行い、日頃何気なく使っている飲料水について関心をもち、水源の確保や整備、水源から各家庭への供給が様々な人々によって協力的・計画的に進められていることを学習してきた。

児童は社会科の学習に対して意欲的に取り組むようになってきている。しかし、資料活用の技能や表現する能力、社会的事象への関心・意欲・態度については個人差が大きく、発言が消極的な児童も見られ、根拠を加えながら積極的に意見を出し合い、学び合いを深めるまでには至っていない。

本単元は、かなり昔の開発について学習する。学級の中で家の水田をもっている児童は1名だけで、用水路と直接に関わりがない児童がほとんどである。児童にとっては、実感を伴わない知識中心の学習になることが予想され、先人の開発における苦労や工夫などを考えるのは難しいと思われる。そこで、当時使った道具などを復元して実際に用水路工事の体験をするなど、体験的学習活動を取り入れることによって、課題に対して意欲的に取り組ませていきたい。

### 3 単元の指導計画

#### (1) 目標

- 地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。
- 地域の発展に尽くした先人の具体的事例を調べることを通して、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

#### (2) 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
①地域の発展に尽くした先人の働きに関心を持ち、意欲的に調べている。 ②地域社会の発展を願ってきた人々の生き方に関心を持ち、地域社会のよりよい発展を考えようとしている。	①地域の発展に尽くした先人の働きについて、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 ②地域の人々の願いや生活の向上と先人の働きや苦心とを関連付けて考え、適切に表現している。	①用水路などを見学したり地域の方から聞き取り調査をしたりして、地域の発展に尽くした先人の働きについて必要な情報を集め、読み取っている。 ②調べたことを年表や白地図、作品などにまとめている。	①地域の発展に尽くした先人の働きを理解している。 ②地域の人々の生活の変化や向上が人々の願い、努力や先人の働き、苦心によるものであることを理解している。

#### (3) 知識の構造図

##### 【学習指導要領の内容との関連】

##### 内容(5)

地域の人々の生活について次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例

##### 【中心概念】

地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心によって、わたしたちの地域の人々の生活が向上した。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田の水は豊沢川から取り入れられ、用水路を流れて田に行きわたっている。</li> <li>・ 米を作るには、大量の水が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 盛岡藩の事業通して、約三百年前に伊藤久慶らが新田堰（鍋倉新田穴堰）を開削した。</li> <li>・ 三百年以上も昔には、この地域に田は少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新田堰の開削は難しい工事だったが、多くの年月や人手をかけて完成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水不足を解消するために、約五十年前に豊沢川の上流に豊沢ダムが造られた。</li> <li>・ 豊沢ダムは平賀千代吉らの働きと多くの人々の協力によって完成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水が安定して供給されるようになり、田の面積や米の収穫量が増大した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在も用水路や施設を整備するための取り組みが行われている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 頭首工</li> <li>・ 用水路（堰）</li> <li>・ 大堰川</li> <li>・ 豊沢川</li> <li>・ 水は命</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新田堰</li> <li>・ 鍋倉新田穴堰</li> <li>・ 水田開発</li> <li>・ 藩の事業</li> <li>・ 盛岡藩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道具（もっこ、たがね等）</li> <li>・ 手作業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水不足</li> <li>・ 水けんか</li> <li>・ 豊沢ダム</li> <li>・ 国の事業</li> <li>・ 移転</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田の広がり</li> <li>・ 米の収穫量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用水路の清掃</li> <li>・ 施設の改良</li> <li>・ 水源林</li> </ul>

(4) 展開 (全13時間)

時	テーマ	学習課題例	展開の概要・評価	資料
1	水はどこから	広い田の水は、どこからどのように引いているのだろう。	(1)田の写真を見て話し合い、大量の水が必要なことに気付く。 (2)田の水がどこから引かれてくるか調べる。 田→水路→分岐点→トンネル→頭首工→豊沢川 (3)学習を振り返ってまとめる。 【関心・意欲・態度】①	・田(写真) ・地図(豊沢ダム～若葉小周辺) ・用水路、分岐点、トンネル、頭首工、豊沢川(写真) ・農家の人の話(音声)
2 ・ 3	用水路の見学	田や用水路はどのようにになっているのだろう。	(1)見学の仕方や内容をつかむ。 (2)見学をして田と用水路の様子を調べる。 学校田→用水路→大堰川 【観察・資料活用の技能】①	・見学の仕方、きまり(表) ・見学ノート
4	学習の計画	学習したことを整理して学習計画をつくろう。	(1)前時までを振り返り、学習内容を整理する。 (2)整理したことをもとに、追究したいことを考える。 (3)考えたことを話し合い、学習計画を立てる。  (単元の学習課題) 先人たちは、どことなくふうや努力をして、田に水を引いたのだろう。 【思考・判断・表現】①	・地図(豊沢ダム～若葉小周辺) ・田、用水路、分岐点、トンネル、頭首工、豊沢川(写真) ・見学ノート
5	新田堰づくりへの願い	新田堰はどんな願いでつくられたのだろう。	(1)現在と昔の風景を比較しながら話し合う。 (2)開削当時の様子を調べる。 盛岡藩の様子、農民の願い、開削を進めた人物、志度平付近を取水口にした理由 (3)学習を振り返ってまとめる。 【知識・理解】①	・昔の様子の風景(写真) ・開削当時の様子(文章) ・新田堰をつくる(文章) ・志度平～湯口付近の土地の様子(断面図)
6	新田堰をつくる 一本時一	新田堰の工事はどのように行われたのだろう。	(1)用水路がトンネルを経て長距離に及んでいることを捉える。 (2)工事で使用した道具や作業の様子を調べる。 (3)作業を体験して考えたことを話し合う。 (4)学習を振り返ってまとめる。 【思考・判断・表現】②	・新田堰の位置(地図) ・トンネル工事の様子(絵図) ・工事の道具(絵図、実物) ・記念館館長の話(音声)
7 ・ 8	ダムをつくる	豊沢ダムはどんな願いでつくられたのだろう。	(1)豊沢ダムの概要をとらえながら話し合う。 (2)水不足の様子を調べる。 (3)平賀千代吉の働きやダムができるまでの様子を調べる。 (4)ダムが完成してからの変化を調べる (5)豊沢地区の人々の思いを調べる。 (6)学習を振り返ってまとめる。 【知識・理解】②	・豊沢ダム(写真、表) ・水争いの様子(文章) ・工事の様子(写真) ・豊沢ダムのあゆみ(年表) ・豊沢地区から移住した人の話(文章)
9	用水路のうつり変わりと田の広がり	用水路が開かれて、人々のくらしはどう変わったのだろう。	(1)年表からこれまでの出来事を調べて話し合う。 (2)水路や田の広がり等を調べて話し合う。 (3)用水路が開かれて変わった様子をまとめる。 【観察・資料活用の技能】①	・新田堰のあゆみ(年表) ・水路や田の広がり(図) ・米の収穫量の変化(グラフ) ・土地改良区の話(文章)
10	用水路を守る	用水路を守るためにどのような取り組みが行われているのだろう。	(1)水路関係の施設の保全等、土地改良区の取り組みについて調べ、話し合う。 (2)清掃や草刈等、農家の取り組みについて調べ、話し合う。 (3)学習を振り返り、自分たちとのつながりについて考え、話し合う。 【関心・意欲・態度】②	・土地改良区の話(文章) ・農家の人の話(文章) ・水源保安林(写真) ・田(写真)
11 ・ 12 ・ 13	学習のまとめ	紙しばいをつくろう。	(1)これまで調べたことをもとに、単元の学習課題に対する結論をまとめる。 【思考・判断・表現】②、【知識・理解】② (2)グループごとに「田の水をもとめて～用水をひく～」という題の紙芝居をつくる。 【観察・資料活用の技能】②	・これまでに使用した資料